

Domaine Launay-Horiot

ドメヌ・ド・ローネイ・オリオ

珠玉の銘醸畑と異色のキャリアを持つ新進気鋭のスター生産者



ドメヌ・ローネイ・オリオの現当主にして醸造家であるグザヴィエ・オリオの半生は、正に驚き以外の何物でもありません。グザヴィエ・オリオを主役とするこのドラマは、フランスの途方もなく高額な相続税に関する法律、そしてここ 20 年間におけるブルゴーニュのブドウ畑の市場価値の高騰を背景に繰り広げられたローネイ家の家族間争い、ワイン作りにかかる情熱、そして 11 年間にもおよぶ法廷争いから成ります。

ローネイ家がポマールに定住し始めたのは 18 世紀のことで、歳月を経てポマールの名だたる銘醸畑を徐々に買い足してゆきました。総面積 4ha の畑のうち、2.2ha は 1902 年に最初のブドウが植樹されたポマールの一級畑レ・ペリエール、同じくポマールの一級畑レ・リュジアン・バに 0.09ha、レ・シャポニエールに 0.59ha、クロ・ブランに 0.17ha を所有し、ジュヴレ・シャンベルタンの特級畑ラトリシエール・シャンベルタンに 0.17ha (ピエール・デュロシェの畑に隣接)、同じく特級畑のシャンベルタンに 0.16ha (ラルー・ビーズ・ルロワの畑に隣接) を有しています。

2000 年に先代のレイモン・ローネイが亡くなり、この 4ha のブドウ畑は、レイモンの娘と孫にあたるグザヴィエ・オリオに遺産として残されました。レイモンは、亡くなる前、娘にドメヌを継承する意志がなく、土地を売って現金に換えることを望んでいると知り、酷く心を痛めました。当時のフランスの法律では、残念ながら他になす術がありませんでした。当時、戦闘機のパイロットとしてフランス空軍に従軍していたグザヴィエは、愛する祖父の遺志とワイン造りにかける情熱を受け継ぎ、家族の畑から再び格別なワインを生み出すという祖父の夢を叶える決意をします。

11 年もの歳月をかけた法廷争いを経て、グザヴィエの資金は枯渇しますが、一族の自社畑から作るワインを再興させるというグザヴィエの決意はより強固なものとなり、ついに 2011 年、グザヴィエは勝訴を勝ち取り、この稀少な 4ha の自社畑を手に入れます。(皮肉なことに彼と法廷で争った実の叔母は、この判決が出てから 2 ヶ月後、相続人がいない状態で亡くなりました。)グザヴィエはフランス空軍を辞職してポマールに帰郷し、ドメヌの復興へと乗り出します。幸運にも、彼のブドウ畑は、法廷争いの間中ずっと適切な手入れがなされ、樹齢を重ねていました。最初の 3 年間は、実質資金ゼロの状態からワイナリーをゼロから立ち上げてゆく傍ら、自らの手で畑仕事を行い、ブドウ畑で実験的な栽培を重ねて収穫されたブドウの殆どを他社へ売却することで資金を調達し、ブドウ栽培とワインの醸造に必要な設備を少しずつ買い足しました。

2014 年には、才能あるコンサルタント、ヴェロニク・ジラル女史の助けを得て、グザヴィエ自らの手でワイン作りを始める準備が整いました。(グザヴィエの言葉を借りると、「ポマールは女性の手が入ることで大いに恩恵を受けることが出来ると実感した」そうです。)やがてトム・アトキンを始め、アレン・メドウやミッシェル・ベタンヌなどといった錚々たる顔ぶれの評論家が彼のもとを訪れるようになります。ドメヌのワインは、ポマールの村名ワインから一級畑のワインに至るまで、ポマールの独特で柔らかな表現力が余すところなく引き出され、その全てが将来有望で極めて興味深い味わいのワインであり、2 つの特級畑ラトリシエール・シャンベルタンとシャンベルタンに至っては、卓越した表現力を持ってそれぞれのテロワールの持ち味が見事に引き出されているとの共通認識がワイン評論家の間で瞬間に共有されてゆきました。

2015 年ヴィンテージからは、グザヴィエ・オリオの激務とその意志の強さがついに報われ、グザヴィエのワインは、シリアスなブルゴーニュワインの愛好家の間でも認められるようになり、ワイン評論家に至っては、例外なく全ての評論家が口を揃えて称賛し、一貫して高得点を付け、「Sweet spot outstanding (胸を打つ傑出したワイン)」や「Don't miss! (見逃してはならない逸品)」の文句から始まる賞賛コメントを綴るようになります。2016 年ヴィンテージは、パレル・テイステイングの段階で既に美しいバランス、ピュアな果実味、素晴らしく魅惑的な味わいを見せ、グザヴィエ率いるドメヌ・ローネイ・オリオの将来が輝かしいものであることを確信させました。

◆醸造手法◆ ブドウは、容量 11 キロの小さな箱を使用して手摘みで収穫し、細心の注意をもって選果台で綿密に選別した後、発酵桶まで無傷の状態では運ばれ、発酵前に低温で 6~8 日間かけて果皮浸漬させます。温度を一定に調整することにより、キュヴェゾンの期間は毎年 4~5 週間とることが出来ます。1 日に 1~2 回ビジャージュとルモンターージュを施して果皮から必要なだけ香味成分を抽出し、12~16 ヶ月の木樽熟成を経て瓶詰前に更に 1~2 ヶ月タンクで休ませます。新樽率は、15%~75%までアベラシオンごとに変えています。

■2018年ヴィンテージ情報■ ◆バークハウンド#78号より◆ グザヴィエ・オリオ:「2014年にワイン造りを始めて以来、2017年と2018年は、最も生産量の多いヴィンテージとなった。しかし、それでも収量過多とはならず、38hl/ha~40hl/haの間に収まったが、抽出レベルの高さは、2018年の方が前年よりも遥かに高く、色味を抽出するのに果醪などの固体部分に殆ど触れる必要がなかった。このため2018年は、前年の2017年よりも遥かに濃縮感のあるヴィンテージとなった。糖度も豊かでいて高過ぎず、潜在アルコール度数は最も高いもので13.5%弱ほど。この年に手掛けたワインは、非常にクオリティが高く、どのワインも2017年ヴィンテージのものよりも上位に位置づけることが出来る。」

ローネイがワイン造りを始めて以来、基本的にどの年もそうだが、2018年ヴィンテージも1級クラスの仕上がりで、強くお勧めしたい逸品揃いだ。ローネイ曰く、2018年は無ろ過・無清澄で、合成コルク Diam(ディアム)10を使用し、2019年12月に瓶詰めしている。《2020/4/10掲載》

2018 Pommard Perrières

参考上代価格 ¥9,000(税抜)

ポマール・ペリエール

■テクニカル情報■ 品種:ピノ・ノワール 100% 畑:樹齢110年を超える村名区画 畑面積:2.2ha

★バークハウンド89点★Outstanding Top value(傑出したバリューワイン)★: リキュールのような赤いベリー系果実と柔らかなスパイスのアロマを基調とする可憐でエレガントな香り。心地よく快活で非常に緻密なミディアムボディの味わいは、重厚さは突出せず、心地よい爽やかさを持ち、軽やかなミネラル香と穏やかな苦みを帯びた微かに温かみのある後味が広がる。《飲み頃:2026+年 | #78/2020/4/10掲載》



2018 Pommard 1er Cru Chaponnières

参考上代価格 ¥12,000(税抜)

ポマール・プルミエ・クリュ・シャポニエール

■テクニカル情報■ 品種:ピノ・ノワール 100% 畑:レ・リュジアン・バの下方に位置するポマール南部の1級畑 畑面積:0.59ha

★バークハウンド91点★Outstanding(傑出したワイン)★:微かな冷涼感を感じさせる抑制の効いたアロマは、構成的にはポマールのヴィラージュ・ワインに類似している。味わいはより洗練された口当たり滑らかなミディアムボディで、後味に広がるミネラル香がやや顕著に引き立って感じられ、より硬質に引き締まっており、バランスもとれている。検討の価値ある逸品。《飲み頃:2030+年 | #78/2020/4/10掲載》



★ジャンシス・ロビンソン 16.5/20点:外観は、軽やかなチェリーレッド。ポマール・ペリエールよりも果実感が引き立ち、果梗由来の香りはより控えめ。極めて心地よい香りを持ち、美しくバランスがとれている。ドライなフィネスに余韻の長い後味。《飲み頃:2023-2030年 | 2020/1/14掲載》

2018 Laticières-Chambertin

参考上代価格 ¥38,000(税抜)

ラトリシエール・シャンベルタン

■テクニカル情報■ 品種:ピノ・ノワール 100% 畑:シャンベルタンと境を接する斜面頂上部・ピエール・デュロシェの畑に隣接 畑面積:0.17ha 平均樹齢:70年 新樽率:50~75%

★バークハウンド93点:ポマールのシャポニエールと同程度の冷涼感と抑制の効いた香りが感じられるが、より深みのある香りで、熟れた赤や黒のベリー系果実のアロマを包み込むソヴァージュやスパイスのニュアンスがより引き立って感じられる。口当たり滑らかで、殆どデリケートとも言えるエレガントな味わいは、豊かなミネラル感に満ち、若々しい収斂性を帯びた静謐で余韻の長い後味が広がる。このワインもまた重厚さの突出したワインではないが、素晴らしく調和のとれた味わいで、長期熟成力の高さを感じさせる。《飲み頃:2033+年 | #78/2020/4/10掲載》



2018 Chambertin

参考上代価格 ¥48,000(税抜)

ラトリシエール・シャンベルタン

■テクニカル情報■ 品種:ピノ・ノワール 100% 畑:クロ・ド・ベーズとの境界・ラルー・ビーズ・ルロワ(マダム・ルロワ)の畑に隣接 畑面積:0.16ha 平均樹齢:70年 新樽率:50~75%

★バークハウンド94点★Don't miss!(見逃してはならない逸品)★:ラトリシエール・シャンベルタンよりも一層深みのある香りで、ブラムや野生のブラック・ラズベリー、掘り起こしたばかりのフレッシュな大地を思わせる奥深い香りが、可憐な花の香りと共に少しずつ花開いてゆく。より大ぶりのボディを持つ力強い味わいは、粒子の細やかなタンニンに由来する非常に滑らかで洗練された口当たりを持ち、濃厚なミネラル香を帯びた途方もなく余韻の長い後味が口内に染み渡るように広がる。若々しい収斂性とタイトに引き締まった味わいを持つこの美しい名品もまた長期にわたる熟成を要するワインだ。《飲み頃:2035+年 | #78/2020/4/10掲載》

